

11月にT・Aさんのところに、I夫妻とY・Yさんが訪問しました。その時のT・Aさんからの崎戸島便りとY・Yさんの訪問記です。

崎戸島便り4

いきなり、3日前の夕方にメールで横室の三人が偵察にくるという連絡があって、その当日の朝、いつものところで海を見ていたら、五島灘に竜巻がはっきりと見えました。生まれて初めて目にすることだし、北海道のことがあったばかりなので、ドキドキしました。海水を吸い上げているようで、海面から白いしぶきが舞ながら上がっていき、すぐに細い黒い渦巻きになって、かなり高い雲まで続いていました。すぐに家に戻るつもりだったので、カメラを持って行かなかったのが、残念でした。こちらに向かってくるのかなあと、不安な気持ちで30分ぐらい、途中でカメラのことなど思い出すこともなく、見入ってました。段々薄く見えてきたので、大丈夫だなと思い、最後まで見ずに、偵察隊のお迎えに行くことにしました。



こちらの予想した到着時間より早く着いて、待ち合わせに遅れて迷惑かけました。お天気が、はじめは不穏な雲がいっぱい出ていたのですが、段々と晴れてきて、様々に変化する海を楽しんでもらうことができました。三人の日頃の行いがそんなにいいのかなあ。やれやれ、終わりよければすべてよしでした。



翌日の今日は、一日中雲がたれ込めていて、夕方からは雷を伴った激しい雨になりました。さっそく、ベランダに出て、稲光を堪能して、8時からの練習に向かいました。

朝倉さんを尋ねて(1)

今回の帰省は、わが故郷、諫早を歩くことであったけれど、9月に長崎の故郷に戻って生活をはじめたT・Aさんを訪問することも計画に入れた。ところが、土曜日の合唱団の練習日に「Iさんも9日にT・Aさんを尋ねる」とのこと。それなら、9日に一緒に行こうとなった。

9日、長崎空港でI夫妻を迎えて、彼らが借りたレンタカーに便乗してT・A邸に向ったのが朝10時ぐらいだった。一人で、バスでもたずねるつもりだったため、何回かアクセスをT・Aさんにメールで聞いたが、返事がない。それもそのはず、簡単にバスがある所ではなかった。T・Aさんのところは、いくつかの佐世保の沖に浮かぶ島にかかる5つの橋を渡った突端にあったのだ。もちろんレンタカーでも、我々だけで向ってもたどり着けないくらいの所で、新西海橋(旧西海橋と平行して新しく出来た橋)の近くまでT・Aさんに迎えに来てもらった。

早速、私はT・Aさんの車の助手席に乗って、走ること数十分。その昔、キリシタンの上陸地跡、近くの小さな島に立つ白い十字架をうす曇の海岸で見学。もし、晴天であれば、海の青と





空の青,翠の島の木々の上に立つ白い十字架の美しさを思う。再度車で走って昼食。二人の男性はぶりのあらいをM・Iさんと私は刺身定食を注文。我々の席の窓のすぐ下は海で打ち寄せる波の下にきれいな石がはっきり透けて見える。多くの島が点在する海辺のせいが波はいたって、穏やかだ。景色に見とれて和風の座敷いるとに流れてきたのが箏曲ならぬフォーレの「レウイエム」。一瞬朝倉さんの配慮か！！と思ったら、なんとその女性店員の方がコーラスが好きな人でCDをかけていたことがわ

かった。4人とも感激、早速T・Aさんは自分の現在所属している西海町の合唱サークルへ勧誘していた。熱心な勧誘は、彼女が美人だったのも????。店を出ると濃いピンクのブーゲンビリアが咲いていて、しばし、遠いベトナムやタイを思い出した。

島から島にかかる橋を6回か7回渡って、大島町へ。長崎に大島があったなんて、私は知らなかった。大島からもう一つの突端の島「崎戸」にT・Aさんの家がある。大島も崎戸も昔は炭坑街として栄えていた所で、あちこちに点在するコンクリートの住居跡が今ではカメラマニア格好の被写体になっているとのこと。廃校の跡の煙突の上には植物が育っていて、まさに、大きな長～い花器に植えられた前衛的な草花を呈している。無人の郷土館と井上光晴の展示を見てさらに朝倉邸の方へ向う。(山口泰世)



* Y・Yさんの訪問記は次号に続きます。お楽しみに。

忘年会のお知らせ

12月23日(土) 4:30～練習後忘年会をします。
練習場所、忘年会会場については、決まり次第ご連絡いたします。
ご都合をつけてご参加下さい。